

令和3年8月19日

稲作情報 第4号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

◎気象概況及び生育概況（アメダス宗像より）

6月21日～8月15日の気象は、平均気温は平年並みで、平年と比べ、降水量は121%と多く、日照時間は117%と多い状況でした。生育は平年並みです。

下表を参考に次のことに留意して農作業を行ってください。

◎品種別出穂期（6月20日頃田植え・平坦地）

※出穂期：ほ場内の5割程度の茎で穂先が出た状態の日

★元気つくし・つくしろまん	・・・	8月20日頃
★ヒノヒカリ	・・・	8月27日頃
★ツクシホマシ	・・・	9月 1日頃

1. 水管理

穂ばらみ期～乳熟期は最も水を必要とする時期で、湛水状態とします。乳熟期以降は、根を健全に保つため、落水期（収穫5～7日前）まで間断かん水を行ってください。

2. 病害虫の発生状況と防除

（1）病害

降雨が続いており、気温が低く経過したため、葉いもち病が発生しやすくなっています。このため、基幹防除の実施を天候が回復し次第、実施してください。

（2）害虫

トビイロウンカは秋になると急激に増殖し、稲を吸汁する害虫です。吸汁害がひどい場合は「坪枯れ」を引き起こします。7月上旬に、多く飛来してきていますので、箱製薬剤で、防人やスクラム以外の箱施薬剤を使用した場合は、特に注意が必要です。その場合は、基幹防除を8月25日から8月末までに（但し、稲の開花期間はミツバチへの影響を避けるため、実施しないでください。）

斑点米カメムシ類の発生も認められます。斑点米カメムシ類は米粒に斑点を生じさせ、玄米品質を著しく低下させますので、必ず防除を行ってください。

◎基幹防除【出穂期防除】

剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	散布量
粉剤	ダブルカットバリダ トレボン粉剤 3DL	いもち病、紋枯病、 カメムシ類、ウンカ類	穂揃い期まで	3~4kg /10a
液剤	ダブルカットバリダ フロアブル	いもち病、紋枯病	穂揃い期まで	1000倍
	キラップジョーカー フロアブル	ウンカ類、コブノメイガ、 カメムシ類	収穫 14 日前まで	1000倍
粒剤	ゴウケツモンスター 粒剤	いもち病、紋枯病、 稲こうじ、 カメムシ類、ウンカ類	出穂 5 日前まで 収穫 45 日前まで	3 kg/10a

※出穂期に穂いもち、紋枯病、トビイロウンカ、斑点米カメムシ類に対して、
基幹防除を行って下さい。

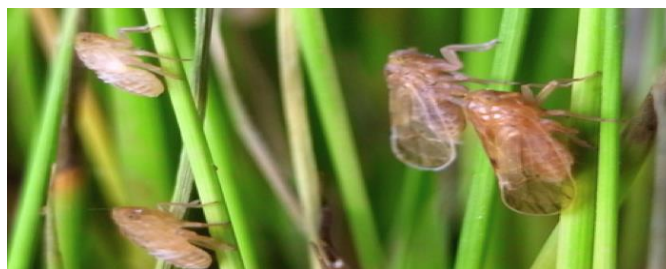
◎補正防除【穂揃期防除】

剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	散布量
粉剤	スタークル粉剤DL	ウンカ類、 カメムシ類	収穫 7 日前まで	3kg/10a
液剤	スタークル液剤10			1000倍
豆粒剤	スタークル豆つぶ			250g/10a

※スタークル剤については、ミツバチへの影響をおよぼす可能性があるため、
必ず開花終了後に散布して下さい。養蜂をされている地域につきましては、
キラップ剤（粉剤・フロアブル・粒剤）を使用するようにして下さい。

※出穂期防除後、圃場で虫の発生状況を確認し防除をおこなって下さい。

【トビイロウンカ】



★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 水田では止水期間（1週間程度）を遵守
- ④ 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄
- ⑤ 防除履歴の正確な記帳

